

第3回絹谷幸二芸術賞

大賞に浅野友理子さん、奨励賞に大東忍さん、
審査員特別賞に松元悠さん

優れた若手美術作家を顕彰する「第3回絹谷幸二芸術賞」（産経新聞社ほか主催、チャーム・ケア・コーポレーション共催）の大賞に浅野友理子さん、奨励賞に大東忍さん、審査員特別賞に松元悠さんが決まりました。2月13日（金）に東京都台東区の日本芸術院で行われた授賞式には、高円宮妃殿下がご臨席されました。

【公式ホームページ】<https://kinutani-award.art/>

「絹谷幸二芸術賞」は、洋画家・文化勲章受章者で、昨年8月に死去した絹谷幸二の「これからの芸術文化発展を担う若手アーティストを支援したい」という熱意に産経新聞社などが賛同し、2023年に創設。40歳以下の美術作家を対象に、全国の美術関係者から推薦された候補者の中から、島敦彦（国立国際美術館長）と建畠哲（草間彌生美術館長）の2氏による厳正な審査を経て、各賞が決定しました。

大賞を受賞した浅野友理子さんは1990年、宮城県生まれ。フィールドワークをもとに植物について深掘りしたエネルギーッシュな作品が評価され、国際芸術祭「あいち2025」でも注目を集めました。

奨励賞の大東忍さんは1993年、愛知県生まれ。過疎地や住宅街などの夜の風景を木炭で描き、深奥なモノクロームの表現は「VOCA展2024」などを通じて高く評価されています。

今回より新設された審査員特別賞を受賞した松元悠さんは1993年、京都府生まれ。法廷画家としての活動の傍ら、事件現場やその周縁での経験や想像をもとにリトグラフへと再構築し、その巧みな描写力が注目されています。

式典では、受賞者にそれぞれ賞状と賞金（大賞100万円、奨励賞50万円、審査員特別賞30万円）、および副賞の画材が贈呈されました。会場には受賞者の作品も展示され、参列者約100人の目を楽しませました。

授賞式にご臨席された高円宮妃殿下は、展示作品をご覧になりながら、浅野さん、大東さん、松元さんらとご懇談し、受賞者や関係者と記念撮影にも入られ、期待の若手アーティストたちをお祝いされました。



浅野友理子さん



大東忍さん



松元悠さん

【受賞者紹介】

■大賞 浅野 友理子（あさの・ゆりこ）

1990年宮城県生まれ。東北芸術工科大学大学院修了。東北地方を中心に、その土地固有の食文化や植物の利用法、人々の営みなどを取材するフィールドワークを制作の基盤とする。日本画材と油彩を融合させ、生命力溢れる筆致で描かれる装飾的な画面には、人と自然との共生や生命の循環、女性の労働など今日的課題への关心が内在し、植物を題材とした絵画に新境地を開いている。「VOCA展 2020」大原美術館賞などを受賞。主な展覧会に「種の温床」(SNOW Contemporary、東京、2023年)、国際芸術祭「あいち 2025」(愛知芸術文化センターほか、2025年)、「たびの溢れ種」(ビルドスペース、宮城、2026年)など。



浅野友理子《綺い交ぜの庭》2021年
油彩・岩絵具・水干絵具、パネルに和紙 170×324cm 撮影：嵯峨倫寛



浅野友理子《地続きの実り》2025年
国際芸術祭「あいち 2025」展示風景
© Aichi Triennale Organizing Committee Photo: ToLoLo studio

■奨励賞 大東 忍（だいとう・しのぶ）

1993年愛知県生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了。語られにくい過疎地や住宅街などを訪れ、主に夜の風景を木炭で描く。その地で盆踊りを踊り、場所が孕む記憶を身体的に捉えながら、人の営みの痕跡を探求する。忘れ去られた場所を「供養」しつつ、匿名化していく制作スタイルと、深い精神性を湛えたモノクロームの表現で、風景画の新たな可能性を提示する。「VOCA展 2024」VOCA賞などを受賞。主な展覧会に「TOKAS-Emerging 2023」(トーキョーアーツアンドスペース、2023年)、「第18回 shiseido art egg 大東忍『不寝の夜』」(資生堂ギャラリー、東京、2025年)、「路体」(ギャラリーサンセリテ、愛知、2025年)など。



大東忍《不寝の夜》2025年
木炭、キャンバス 181.8×227.3cm
資生堂ギャラリー
「第18回 shiseido art egg」展示風景
撮影：加藤健





大東忍《風景の拍子》
2023年
木炭、キャンバス
131.3×388cm

■審査員特別賞 松元 悠（まつもと・はるか）

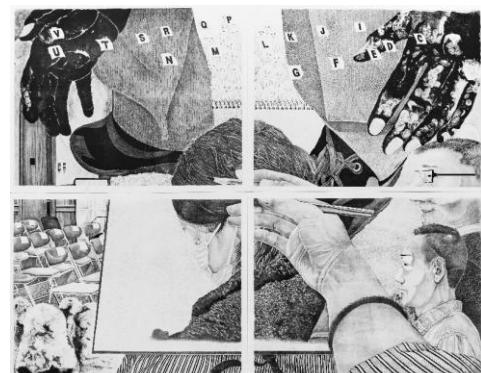
1993年京都府生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。法廷画家として活動する傍ら、事件の現場やその周縁に赴き、そこで得た経験や想像をもとにリトグラフ作品へと再構築する。事件の当事者の姿を自ら演じながら自画像にして作品に落とし込むことで、ニュースとその受け手の視線から生まれる重層的な「真実」を浮き彫りにする。「アートアワードトーキョー丸の内 2018」ja.a.t.m.2018 三菱地所賞など受賞。主な展覧会に「出来事との距離—描かれたニュース・戦争・日常」（町田市立国際版画美術館、2023年）、「サラバ化物（憶測の追跡）」（茨木市立ギャラリー、2024年）、「松元悠 夢」（兵庫県立美術館、2025年）など。



撮影：アート / 空家 二人



松元悠
《蛇口泥棒（長浜市、
東近江市、砺波市）》
2022年
リトグラフ、BFK紙
49×65cm



松元悠
《それでも貴方たちは
やさしかった》
2025年
リトグラフ、BFK紙
150×200cm
撮影：花戸麻衣

【開催概要】

名 称 第3回 絹谷幸二芸術賞 平面絵画の可能性探る～次代を担う新進アーティスト発掘！
主 催 絹谷幸二芸術賞実行委員会、産経新聞社、公益財団法人絹谷幸二美術財団
共 催 チャーム・ケア・コーポレーション
協 力 サクラクレパス、ミキハウス
審査員 国立国際美術館館長・島敦彦／草間彌生美術館館長・建畠哲
対 象 40歳以下（2025年1月1日現在）／日本国内在住（国籍不問）／平面絵画作品を発表していること
賞 大賞 賞金100万円／奨励賞 賞金50万円／審査員特別賞 賞金30万 ※各賞に副賞（画材）あり
選考方法 同賞実行委員会が選出した全国の美術関係者（美術館学芸員、大学教員、キュレーター、ジャーナリストなど）約270人に作家1名の推薦を依頼。審査員2人が推薦資料とともに第一次審査を実施し、通過した約10人の中から大賞、奨励賞、審査員特別賞の各1人を選出。今回の推薦者は84人、推薦を受けた作家は72人。